



# とっぱずれ



銚子東ロータリー・クラブ Weekly Bulletin NO. 2032



熊野本宮大社の鳥居の横に掲げられている  
八咫鳥 (やたがらす) の旗 (和歌山県)

八咫鳥とは日本神話において、神武東征の際に、高皇産靈尊によって神武天皇のもとに遣わされ、熊野国から大和国への道案内をしたとされる3本足のカラス(鳥)である。熊野三山では太陽の化身と考えられ、信仰に関連するものと考えられている。

提供：宮内 宗一 会員 (10)

第2032回 例会 平成25年12月3日

\*\*\*\*\*

点 鐘 … 宮内 博 会長  
国 歌 … 君 が 代  
ロータリーソング … 奉 仕 の 理 想  
来訪ロータリアン紹介

… 親睦活動・家族委員会

会 長 挨拶 … 宮内 博 会長  
御 祝 披 露 … 宮内 博 会長  
誕 生 祝 … なし  
結 婚 記 念 日 … 宮内 博 会員 (12月1日)  
関根 輝男 会員 (12月2日)  
藤崎 一成 会員 (12月3日)  
入 会 記 念 日 … なし

ニコニコBOX … 親睦活動・家族委員会

卓 話

「警察署長像」

銚子警察署 署長 鈴木 英夫 氏

出 席 報 告 … 出席・プログラム委員会

来週のパログラム (平成25年12月10日)

\*\*\*\*\*

年次総会

四大奉仕委員長中間報告

幹 事 報 告 … 釜谷 藤男 幹事

お食事「常鮪 (ちらし)」



## ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES

ロータリーを 実践し みんなに 豊かな人生を

2013~2014 年度 RI 会長 ロンド. バートン

第 2031 回例会(平成 25 年 11 月 26 日)

## 会長挨拶

宮内 博

ロータリーの「徽章」とは、我々が通常ロータリー・バッジと呼んでいるロータリー・マークの襟章のことです。最初のロータリーの徽章は、1905 年(明治 38 年)にシカゴロータリークラブ会員で、彫刻家のモンタギュー・M・ベアがデザインした馬車の車輪をかたどった簡素なもので、「文明と運動」を象徴するものでした。最初の頃は、多くのクラブがこれに少し手を加えたものを徽章として採用していました。1910 年に結成されたロータリー全米連合会から加盟クラブへ呼びかけて、徽章の意匠を募集し、1912 年のドルース大会で、金色とロイヤルブルーの歯車を、正式の徽章として制定しました。

しかしその後、専門家からこの歯車は技術的に不完全であり、このままでは動かないとのクレームが出たので、2 人の技術者(ドルースのオスカー・B・ジョージとシカゴのチャールス・ヘンリー・マッキントッシュ)からなる委員会が任命され、技術的に正確に動く歯車が検討されました。

この委員会が考案したデザインは 1920 年正式に採用公布となり、これが今日親しんでいるロータリー・マークであります。ひとつだけ違いがあります。それは、前述の 2 人の委員が楔穴(くさびあな)を見落としたことで、これがないと歯車は車軸からの力を伝えることができなくて遊んでしまいます。かくして 1923 年に楔穴も付け加えられて、歯車は休止することなく今日まで回転し続けているのであります。

ロータリーの徽章は、ロータリアンの権利としてその着用が認められ、ロータリアンとその家族が着用する襟章に使用することが許されています。「バッジ」という言葉は、「R I 定款」「R I 細則」では、徽章と区別して使用され、例会場で付ける丸い名札を指しています。

ロータリーの徽章の着用は、ロータリアンの誇りを示すと同時に、その責任を表しています。1993~94 年度 R I 会長ロバート R. バース氏は、1993 年の国際協議会で、次のように述べております。

ロータリアンが徽章を付けているときは、次のことを意味している。

- あなたは、私を信用していただいて結構です、私は信用に値する者です；
- 私の用意はできています。何時でも、あなたのために奉仕できます；
- 私は受ける以上のものを、あなたに与えます。私は人のために奉仕します。

ロータリーの徽章は“善意と寛容”を説き、その心を象徴するもので、ロータリアン同士にとって「その個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用する」お互いの絆であり、“思いやり”とか“人のために”というロータリアンとしての心構えが入魂されているものと考えられます。

そこで、全会員はロータリーに対する公共的イメージをあげるために、ビジネスおよび社交行事の場でロータリーのバッジを常に着用し、これを信用と奉仕の象徴としなければなりません。我々クラブを振り返りますと先輩ロータリアンは色々な場で積極的にバッジをつけているようですが、我々若手は例会以外付けない消極派が多いように思います。

ロータリーの公共イメージアップのためにも自身の心構えのためにも積極的にバッジをつけましょう。

## 幹事報告

- 1・ガバナー事務所より
    - ・クラブ国際奉仕委員長会議のご案内
    - ・フィリピン台風災害支援のお願い
    - ・第 4 回日台ロータリー親善会議のご案内
    - ・地区 RLI(ロータリー・リーダーシップ・研究会)開講のご案内
    - ・12 月ロータリーレートのお知らせ 1\$=100 円
    - ・地区協議会報告書 受領
  - 2・銚子商工会議所女性会より
    - ・平成 25 年度新春講演会への協力について(お願い) 受領
    - ・講師決定について(報告) 受領
  - 3・銚子市保護司会より
    - ・更生保護受賞関係者祝賀会開催のご案内 受領
  - 4・千葉日報社より
    - ・新春の集いのご案内 受領
  - 5・例会変更のお知らせ
    - 旭 RC より
    - 12/20(金) 点鐘 18:30 「黄鶴」クリスマス家族会の為
    - 12/27(金) 定款第 6 条第 1 節(c)により休会 受領
- ☆週報受領 旭 RC

## 卓 話

「地区補助金を利用したミンダナオ島盲学校  
支援活動について」

銚子 RC 国際奉仕委員長 高橋 宏資 氏

我々のクラブはこの三年間、地区の WCS 委員会廃止に伴いほとんど国際奉仕活動をしておりませんでした。しかし昨年 10 月頃に会長エレクトから次年度は WCS 活動を復活する旨を告げられました。そこで前年度国際奉仕委員長の速やかな計らいでグローバル補助金は無理なので新地区補助金を使ってプログラムを考えることになりました。南ダバオ RC を紹介してもらい今年 3 月に 4 人のメンバーでミンダナオ島に行き、南ダバオ RC の案内で盲学校を視察し、今回のダバオ盲学校支援が決定されました。



新地区補助金は、計画年度と実施年度とに分け次の 8 項目に沿って行わねばなりません。

- ① クラブが事業計画を作成(3~4 月)
- ② クラブが地区へ申請(5 月)
- ③ 地区の財団への一括申請(年度 1 回限り)
- ④ 財団より地区へ補助金交付
- ⑤ 地区よりクラブへ補助金支給
- ⑥ クラブが事業の実施(9 月 20 日、21 日)
- ⑦ クラブが地区へ最終報告書を提出
- ⑧ 地区が財団へ最終報告書を提出(補助金受領後 12 か月以内)

また、R 財団地区補助金(DG)申請書は 5 月に次期財団委員長あてに様式 1-1、様式 1-2、見積書、支援についての趣意書、盲学校のパンフレットとスナップ写真 2 枚を同封し

て送りました。また、専用の銀行口座の開設も必要です。

その様式1-1申請書を紹介します。

- このプロジェクトで何をしますか。
  - 盲学校における、音楽教室の充実 「音楽があふれる、楽しく、明るい学校のイメージ作り」
- このプロジェクトの恩恵を受ける人々の数はどのぐらいですか。(ロータリアン以外)
  - 60名の盲学校児童と、入学を待つ視力障害児童
- プロジェクトの受益者は誰ですか、またどのような恩恵を受けますか。
  - 視力に障害を持つ子供たち。
  - 楽器の数、種類が増えることで、多くの子供たちが一緒に演奏することが出来、より充実した学校生活がおくれること。  
楽器の習熟が、将来、子供たちの生活の一助となれば、またそれにより、ご家族の負担が軽減されることも期待します。
- このプロジェクトに何名のロータリアンが参加する予定ですか。
  - 銚子 RC 会長、幹事、国際奉仕、新世代奉仕委員会メンバー (約10名)
- これらのロータリアンは何を行いますか。プロジェクトへの財政的支援を除き、その具体例を少なくとも2つ挙げてください。
  - 現地調査=本年3月、4名で現地を訪問、先方との話し合いを実施
  - 楽器購入に向けての準備、見積の後、楽器購入
  - 現地への楽器運搬に向けての準備 (運搬方法・等)。現地への楽器運搬の実施。
- このプロジェクトを実施することにより地域社会に対してどのような長期的影響が期待できますか。
  - 視力障害者が楽器演奏を習得することで、日々の生活に新しい希望を見つけ、明るく前向きに生きること。
  - 将来的には、盲学校生徒による「コンサート」を実施し、音楽があふれる明るい学校が「地域の憩いの場」となること、  
また、地域の方々が盲学校への理解をより深めることにより、今後の支援につながることを期待します。
- 協力団体が関与している場合、その団体名と役割を記述して下さい。
  - 3860 地区/現地パートナークラブ・南ダバオロータリー・クラブによる現地情報の提供、等。

また、楽器については以下の通りです。

トランペット (ヤマハ YTR-2330) 3台

アルトサクソ (ヤマハ YAS-280) 3台

クラリネット (ヤマハ YCL-255) 2台

その他、クラリネットリード、アルトサクソリード

支援実施は9月20日、21日でミンダナオ島に7名です。

団長、会長エレクト、信太秀樹、宮内秀章、宮内龍雄、金島弘、高木浩一、高橋宏資、米山留学生、キム、以上です。

銚子 RC 幹事 宮内 秀章 氏

今回の支援は宮内会長の活動方針にも載っております。未来の夢計画の一環として会長の本年度のモットーであります「全員野球を心において7名で行ってまいりました。」

まず初めに盲学校に行きました。学校に到着しますとサ

ウスダバオロータリークラブの皆さんが楽器の寄贈式等のセレモニーを進行していただき、また我々の会員も一人ひとり挨拶させていただきました。その後、子供達による楽器の演奏が始まったのですが、私は一生懸命楽器を演奏する子供達の姿を見て、3月に来て初めてこの子供達の演奏を聴いた時のあの感動を思い出しました。

演奏が終わると、今度は乗りに乗った信太団長が子供のギターを取り、いきなり日本語の歌を歌い始めました。最初は、あっ、またやっちゃったよとドキッとしたのですがそのうちに子供達は笑顔になり、手拍子を取り、音楽に乗り大喜びしてました。言葉の壁を越えた、音楽を通して信太団長と子供達との心の会話を目のあたりにしました。その様子は大変素晴らしく心を打たれました。

盲学校を後にして次にストリートチルドレンの集まる場所へ食事の配給に行きました。

ここでは食事の後に高橋国際奉仕委員長より子供達に歯ブラシのプレゼントがあり、それから実際にその歯ブラシを使って、歯の磨き方について話がありました。多分、子供達には歯を磨くという習慣がなかったらしく、ある子は歯ブラシで頭をかいいたり、ある子は水道管のパイプを磨いたりしてました。

高橋委員長の説明は、冗談も交えながら子供達が徐々に引き寄せられていくのが良くわかり、また私もあんなに熱く語る姿を初めて見ました。きっと高橋委員長の熱意が子供達に通じたのかなと思います。

最後になりますが、今回の支援ただ楽器を届けたということだけではなく、高橋委員長・信太団長の心を通わせた交流が、私が今まで参加した支援とは異なった、一歩先に出た支援活動が出来たのではないかと感じております。以上で終わります。ありがとうございました。

銚子 RC 副会長 信太 秀紀 氏

今回のフィリピン支援で、われわれ一人一人が最も感じたのは「言葉の壁」でした。私の英語のスピーチもうまくはいきましたが、所詮英会話ができるわけではありませぬので、サウスダバオロータリーとのコミュニケーションは身振り手振りになります。食事中も移動中も、どうしても会話が途切れがちになります。

2日目にストリートチルドレンの炊き出しに行きました。この子供たちは、両親もいないし、家もないために、食べるものもありません。その上、毎日パーキングや、道路の上で眠るのです。それでも、陽気でもとても明るいのです。喜んで何杯でも食べる姿を観ているうちに、私の隣にいた、キムユリさんの目から涙がこぼれていました。私も胸にこみ上げるものがありました。私たちはこの子供の将来を考えずには居られません。「地元のロータリアンは自分の街にこういう子どもたちがいるのだから、引き取って育ててあげればいいではないか。」とも考えましたが「も



